

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.54 2010年10月17日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

## 今後の活動を見据えて

第13回定期総会を開催しました

山木 健介

9月23日(木・祝日)に第13回定期総会を劇団稽古場で開催しました。今回の特別講演はスズメバチの研究者の中村雅雄さんでした。

午後1時半過ぎから開催した総会には、文化の仲間会員と劇団員が参加し、参加者から様々な意見が出されました。

発言趣旨を箇条書き的に報告します。「会員の半分くらいは劇団の公演を観に来ていないと思いますが、対策が必要。もっと公演をアピールしたほうが良い」「8月28日・29日の催しはすばらしかった。絵を展示したことが初めてなので、やってよかった。ただし、初日無料なのがくやしかった。経費はかかっているから少しでもとるべきだった」「29日に戦争体験を語ってもらったが、疎開の体験もまた強烈なものがある。機会があれば語ってもらってはどうか」「劇団のカンパの取り組みを一緒にやっているのに、総会議案の経過報告にのっていない」「会員は公演の割引ができないのかなと思う」「文化の仲間の会員でない人から、文化の仲間って割引ないの?と言われた」「文化の仲間の世話人は劇団公演の稽古の成り行きを見守ってほしい。稽古を観てほしい」「公演で、チラシ・会報などを入れるなど、もっと文化の仲間をアピールし

たほうが良い」「地域にどういう要求があるか、要求をどう掘り起こせるか、真摯に考える必要がある」「文化の仲間ももっと要求を出していく」「会費をしっかり払ってもらって、芝居も観に来てもらうようにしたい」「創造的な欲求が会員の中にあれば、朗読なり音楽・歌などやりたいひとに稽古場を提供する」などでした。これら出された意見は世話人会で議論し、実現できることはしていくつもりです。

総会の次に特別公演があり、中村雅雄さんから、スズメバチ～生き残り戦略と人とのかかわり、と題するお話を伺いました。100回以上スズメバチに刺されているという中村さんですが、スズメバチへの愛情あふれる話しぶりが印象に残りました。後日、中村さんから総会に参加して楽しかったとの感想をいただきましたが、お話を聞いた私たちのほうが楽しい時間を過ごせました。

特別公演のあとで、中村講師も交えて交流会を行いました。総会参加者は23名でした。

総会で選任された世話人は、二村柊子・高橋明義・藤崎秀子(以上が代表世話人)、山木健介・須田セツ子・西川日女子(以上が事務局)、小野寺晃・佐藤友吉・角田博志・渡辺そのこ(敬称略・順不同)、の10名です。



総会での討論風景



中村雅雄さんのスズメバチのお話を聞く

# 平和をおもう朗読の会 vol.5 を開催しました

8月28日(土)、29日(日)の2日間、“平和をおもう朗読の会 vol.5”を劇団と文化の仲間の共催で開きました。1日目、稽古場は真っ暗。ペンライトを手に古澤潤さんの「死者の譜」を観るという試みに、美術関係の方々も来場されました。2日目は戦争体験を2人の方に話していただくこともできました。また、初登場の若いマリンバ奏者・久保友香さんのエネルギーと柔軟さは見事でした。両日とも100人近い方々にお越しいただきました。本当にありがとうございました。(実行委員会)

## 「展示」という 表現の場を与えられて

古澤 潤

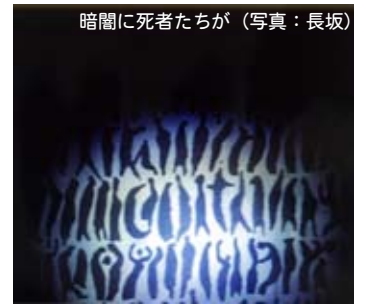
見ることを拒否する暗闇と心細いほどの小さな灯で探り見る「暗闇の中のペンライト」展は1年ばかり前、夜中にふと思いついたことでした。勿論、<sup>もちろん</sup>“シリーズ・死者の譜”という、風景画や人物画とはかなり違った表現の作品だからこそですが、その思いつきもすっかり頭から消え去ってしまっていた今年の6月、京浜協同劇団の稽古場に絵を並べないかというお話をいただきました。

稽古場ならば暗闇が出来るはず！ 頭の片すみにあった「ペンライト展」を提案したところ思いがけなく受け入れてもらえて実現に至ったわけです。おぼろげな構想のまま提案した私にとっては、誰もやったことのない展示ですから、説明はしたものの想像したようなものになるかどうか、何の保障もありません。当日の朝は、地震でも起こって中止になれば有難い、などとよからぬことを考えながら古市場のスペース京浜に向かう始末でした。

私はどうも“熟慮スタート型”ではないようです。



劇団の方々にとっては初めての試み、しかも当の本人も経験したことのない展示とあって、ご苦労は大変なことであつたらうと、感謝の気持ちでいっぱいです。



それにしても安達元彦さんのピアノとの出会いは思いもかけないものでした。会場に並んだ自分の絵に「お前たち、聞いているか、感じているか」と話しかけてやりたくなった貴重な時間でした。



見知らぬ人々の中で一步も引かずマリンバを演奏した若い音大生の久保友香さんもさわやかな風を吹かせました。

稽古場、あるいは小劇場という空間は画廊や美術館展示場に慣らされてきた者にとって独特のものでした。観光地の風景と足を頼りに踏みこんで出会った自然との違いでしょうか、そこに作品を置くことによって表現の一つの側面である「展示」について思いがけない問題を投げかけてくれたのではないかと思います。

劇団、稽古場空間、音楽、朗読と歌。そこに集う人々とのちょっとした会話ややりとり、耳に残った言葉…は今、なにやら発酵し始めているような気がしています。

有難うございました。

(横須賀市在住・画家)



# まさにコラボレーション

松井 友子

8月29日。「音楽と朗読とトークと絵」欲張りにたくさん盛り込んで、どんな展開をみせるのかと胸躍らせてその催しに参加させてもらった。

舞台上に並ぶ古澤潤さんの絵「死者の譜」のシリーズ、マリンバの演奏で、劇団員の方々の朗読で、ピアノの演奏で、絵の死者たちが、私はこんな風に突如死んでしまった。オレはこんな風に殺されたんだ。死んだ人たちが画面から抜け出して、その死に様を見る者の胸に訴えかけてくる。

まさにコラボレーションとはこのようなことか？すべてが一体となって、戦争とはこのように殺戮の連鎖でしかないのだと語りかけてくる。

実際に戦争体験を語ってくださったお話も生々しい。たしかに、今、分岐点で、その後を語り継ぐ人を頼みにしなければ消えてしまう。大事な遺産だ。今を生きる私たちはこのことも心しなければならぬと自覚させられた。

トーク「女性画家 ケーテ・コルヴィッツをめぐる」古澤潤氏と和田庸子さんのお話も興味深く聞かせていただいた。

私自身、彼女の存在を知ったのは30年くらい前になる。作品にふれたのはこのところ十数年前のことだ。銀座の画廊で、この人の作品展があると新聞で見て友人と行った。小さいリトグラフだったがその気迫におされた。その後、町田の国際版画美術館、長野の有明美術館、小淵沢のフィリア美術館と主人に連れて行ってもらって、その作品にふれさせてもらった。各々の人の生き様を画面にたたきつけて、生命の輝きをみせる。心を

絵を背景に鈴木たか子さんのピアノ演奏 (写真：山木健介)



とらえてはなさない。美しいと思った。本当の美しさとはこういうことだと思わされた。

制作する側も、絵だけ描ければよい、技術だけ上達すればよいと、ただそれだけを求める傾向の人たちもいる。描くとは、本当に美しいものとは何か。各々の人の生き様を見つめて、そこに切り込んでいくことが大事と教わった。

人工透析に入って16年、病院通いと病との闘いに時間も心もとられてしまう。でもそのなかで、このような心を奮い立たせてくれる感動に出会うと、それを栄養分として、また一步、歩き出すことができる。本当によい学びができた。

この催しに感謝！ 2010.8.29.

(文化の仲間会員の友人・横浜市在住)



詩の朗読 (写真：山木)

## 奇跡のような縁がきっかけで

久保 友香

幼少のころにピアノを習い始めてから何となくいつも音楽が自分のそばにあることに気付いたのが、16歳の頃のことでした。高校生になったことで今まで考えもしなかった自分の将来について、具体的に現実的に向き合う機会が増えました。私は横須賀に生まれてから市立の小中高に通い、特別な音楽教育を受けることもなく、ただ好きで親に習わせてもらっていただけの音楽でしたが、裏を返せばこんなに長く好きでいつづけられた唯一のものが、音楽だったのです。飽きやすい私には音楽の存在はとても貴重なことなのです。

気がつけば、「ピアノが弾けたらなんとなくいいな」からいつのまにか「音楽がないと物足りないな」といった感じに自分の中で段々「音楽」の価値観が変わっていき、音楽大学への進学を決めることになりました。噂に聞く卒業後の世間の厳しさを意識すると、「音楽大学は就職に不利なんじゃないの？」という疑問も浮かばなくはありませんでしたが、「でも、だから他の道をいって一体何をどうするのだろう……」と、それ以外の将来を思い描けなかったというのが事実です。実際に入学してからは毎日刺激的な環境の中で、忙しくも充実した毎日を送っている実感を、日々味わいながら、今年でとうとう4年目を迎えました。

本当に奇跡のような縁がきっかけでこの夏に京浜協同劇団でマリimbaを弾かせていただく機会をいただき、たくさんの芸術家の方や劇団の方から、これまで味わったことのない刺激を受けることとなりました。「国内の音楽大学の中でも演奏機会の多い大学」といわれる学校で、文字通り多くの本番をいただいて様々なスタイルで演奏をしてきましたが、学外で、それもプロの芸術家の方と一緒に一つの催しを作るなんてこ

とは、初めてのことで、すべてが手探りだったために、周りの方々には計り知れないフォローをしていただきました。そして、初めて大学の外の世界で演奏をしたことで、気がついたことがありました。それは、音楽は結局のところ、「よかった」の為なのではないかということです。今回の企画に携わっていただれもが、お互いの表現の感想に「上手だ、上手い」などという言葉は一度も口にすることはなく、それは心で見聞きしている人たちの自然な現象なのだろうと、私は思いました。音楽大学の学生でいると、様々なオーディションや実技試験で、演奏を点数化することがしばしばあります。先輩や同輩の演奏を聴いて「上手いな」と思うこともあります。私たち学生は、超絶技巧をいかにスムーズに弾けたか、なんてことを気にしすぎていた



絵を背景にマリimbaの即興演奏 (写真:長坂)

あまりに、熱心な研究の先に目指している「音楽」についてその目的を忘れすぎていた気がしました。これはこれからも音楽とともに生きる私には大きな発見でした。

とはいっても、人の心に届く力のある音楽を生みつけるために必要なスキルを、学生のうちにたくさん身につけたい、ということも本音です。残りの少ない学生生活でやれることは盛りだくさん、1日を大切に日々前へ進んでいこうと思います。

### 世話人会から2つのお願い

1つ目は、秋の劇団の公演「黒と白のピエタ」の観劇および受付等のお手伝いのお願いです。11月26日～28日および12月3日～5日の6日間10公演を行います。劇団員総出の公演ですので、受付・道案内・会場案内・会場整理はほとんど文化の仲間を中心にやることとなります。

しかし、世話人会の人数には限りがありますので、世話人以外の会員の皆さん、および文化の仲間に入っていない方々にも呼びかけていく必要があります。

公演を観る日、観る時間以外で、もう1公演をお付き合いいただき、受付等のお手伝いをお願いできないでしょうか。また手伝っていただける方をご紹介いただけないでしょうか。

2つ目のお願いは、劇団カンパの再度のお願いです。

文化の仲間としても当初から劇団の「カンパ委員会」に役員を派遣し、「共に歩む」カンパ活動をしてきました。それは文化の仲間結成時から一貫して追求してきた「稽古場を地域の文化の砦」にしようという思いを実現させるために、稽古場の充実は不可欠だからです。

1,300万円を一応の目標にして取り組んできて、皆様のご協力で1,000万円を超えることができました。しかし、あと少しが必要です。まだの方はぜひご協力のほど、お願いいたします。分割でも、少額でも、結構ですので、劇団に送っていただくか、劇団員への手渡し、公演の際にカンパ箱に入れていただくなど、よろしくごお願いいたします。

また、カンパ活動の一環として、公演の際にバザーを行っていますので、バザーへのご協力もお願いいたします。

# 舞台は生演奏・安達元彦さんほか

～奏して、うたって～

ケーテ・コルヴィッツ（ドイツの画家）の生涯を描く

京浜協同劇団 水野哲夫

劇団の和田庸子が長い間追いかけてきたドイツの画家ケーテ・コルヴィッツの生涯を描く戯曲「黒と白のピエタ～種子を粉にひいてはならない～」の戯曲がようやく上がり、上演することになりました。

ケーテ・コルヴィッツは1867年（明治元年）に生



まれ、1945年（昭和20年）に亡くなったドイツの代表的な、そして国民に最も愛された画家。

第1次と第2次の世界大戦で息子と孫を亡くし、ナチスに抵抗しながら創作活動を続けてきました。

ケーテの作品は、ドイツ民衆の苦しい歴史

の中からそこに生きる人、たたかう人々の姿を慈悲深い目で見つめたものを多く残して、今もその絵をみる



と、私たちに平和や優しさ、慈悲、そして力を強く感じさせてくれます。

この公演に対して美術界の先生方をはじめ多くの方の推薦をいただきました。また舞台のほうも友情出演で19名の方が参加、劇団員を含めると40名以上の参加の芝居になります。

音楽は生演奏、安達元彦さん、栗木健さん、梅津美香さん、塩田儀夫さんが演奏と歌で舞台を大いに沸かしてくれるはずです。

そして、この大軍団のまとめ役が演出の杉本孝司さん（東京芸術座）です。

杉本さんは、2年前に川崎煙突男を芝居にした「天空百三十尺の男」の芝居を、大胆な舞台構成と緻密な指導で、たいへんおもしろい芝居に創りあげ、お客さんに大好評でした。今度もきっと大いに期待できる芝居になるでしょう。

 京浜協同劇団 第81回公演

日独交流 150周年

# 黒と白のピエタ

種子を粉にひいてはならない

作 和田庸子 演出 杉本孝司（東京芸術座） 音楽 安達元彦

日程 2010年11月26日（金）・27日（土）・28日（日）

12月 3日（金）・4日（土）・5日（日）

各日 昼（14：00開演）・夜（19：00開演） 予約制

ただし11月28日と12月5日は昼のみ

会場 スペース京浜（京浜協同劇団稽古場）

京浜協同劇団 〒212-0052 川崎市古市場2-109 TEL 044-511-4951

FAX 044-533-6694 E-mail: keihinkyoudougekidan@nifty.com

後援

ドイツ連邦共和国大使館

日本美術会

全日本職場美術協議会

川崎市

川崎市文化財団

ほか



◎文化の仲間通信◎

◆川崎市民劇場第298回例会 文学座公演

殿様と私

作 マキノノゾミ／演出 西川信廣／出演 加藤武・  
たかお鷹・寺田路恵 ほか

日程 10月18日～30日

会場 多摩・宮前・幸の各市民館とエポック中原  
明治19年、白川義晃子爵は急速に西洋化する日本  
になじめず、酒浸りの日々を送っていた。ある日、家  
令のちょんまげを時代遅れとからかわれたばかりか、  
白川子爵は華族の資格なしと罵倒されてしまう。怒り  
心頭で「討ち入り」を決意する義晃だが……。

問合せ 川崎事務所 044-244-7481  
溝の口事務所 044-855-5916

◆交流とお話の夕べ in さくらもと

川崎のハルモニたちが生きた時代

日程 10月23日(土) 13:00～17:00

会場 「トラヂの会」交流センター(旧桜本幼稚園)

資料代 700円

第1部 文化交流

出演 岡田京子(アコーディオン)／鬼丸ゆり(歌・  
朗読)／川崎母親コーラス／ハルモニの皆さんの歌  
と踊り

第2部 川崎のハルモニたちが生きた時代

紹介と解説 三浦知人／お話 ハルモニの皆さん／  
コーディネーター 鈴木宏子

第3部 フィールドワーク

「ふれあい館」など地域の案内 三浦知人

主催 トラヂの会・川崎母親連絡会・川崎区母親連絡  
会・建設主婦協・治安維持法国家賠償要求同盟川崎  
支部

問合せ 治安維持法国家賠償要求同盟川崎支部事務局  
植田 090-5316-7532 044-861-1707(TEL/FAX)

◆劇団よこはま壱座 旗揚げ公演

笑う店には、福きたら!?

作 三木直史／演出 濱田重行／出演 川西玉枝・河  
住靖一・三木直史・勝碕若子・熊谷浩子 ほか

日程 10月29日(金)～31日(日)

各日 14:00・18:00 開演(31日は昼のみ)

会場 ラゾーナ川崎プラザソル(JR川崎駅西口)

入場料 一般 2500円 中高生 2000円 ほか

とある小さな居酒屋さん。不景気でも愉快的常連  
さんたちに支えられ、今宵もにぎやかに開店します。  
……老いも若きも今どきの悩みはあるけれど、それ  
でも笑ってお酒を交わせればきっと幸せが訪れるはず!

問合せ 090-8175-3031

HP <http://yokohama1za.web.officelive.com/>

◆愛 Love9条 かながわ女性9条のつどい

日程 11月10日(水) 17:45 開場 18:30 開演

会場 神奈川県民ホール大ホール

JR 関内駅南口徒歩 15 分・みなとみらい線日本大通  
り駅徒歩 5 分

講演 「音楽・母性・平和」 湯川れい子

ジュリーとうたおう 「我が窮状」—沢田研二さん  
をむかえて

参加協力券 2000 円

問合せ 実行委員会 045-664-4249

◆古澤潤展

日程 11月16日～21日 (11:00～18:00)

会場 ぎやるり・じん&Chiyo's

Tel. 045-681-5900 (中区石川町 2-85)

JR 石川町南口徒歩 2 分(元町反対方向)

問合せ 古澤 046-856-8982

8月28・29日の「平和をおもう朗読の会」で絵を  
展示された古澤潤さんの個展が開催されます。

◆Kawasaki ART Center アルテリオシネマ

10月20日～11月26日上演映画予定

上演作品 駅前旅館／ニッポン無責任時代／喜劇・女  
は男のふるさとヨ／本日休診／モダン・ライフ／ボ  
ローニヤの夕暮れ／アラビアのロレンス／動くな、死  
ね、甦れ／ようこそ、アムステルダム国立美術館へ／  
ローマの休日／モリエール恋こそ喜劇／ミツバチのさ  
さやき

料金 一般 1000円～1700円 ほか

問合せ 川崎アートセンター 044-955-0107

◆和太鼓打楽音 太鼓教室生募集

12月から初心者教室(木曜日)開催予定

まずはあなたもワンコイン(500円)和太鼓体験

体験教室開催日 10月28日(木)、11月11日(木)、

11月18日(木) 各日午後7時～8時30分

会場 打楽音川崎スタジオ(塩浜川崎陸運事務所向い)

問合せ 玉田 080-2043-8175

■文化の仲間ギャラリー■

竹間テル子⑩

